

第7回タウンミーティングの意見交換内容について

■日 時：平成26年 1月27日（月）午後7時～8時30分

■場 所：龍田公民館大ホール

■参加者：熊本市教育委員会（崎元委員長、森委員、泉委員、田口委員、廣塚教育長）、
市内在住者及び勤務者（38名）

No.	質問・提案・要望等	回 答	補 足	担当課
1	○いじめ・不登校対策について いじめ・不登校について、熊本市では、どのような要因が多く、どのような対策を実施しているのか。	・いじめについて いじめに向かわせる要因は、「ストレス」「競争的価値観」等がある、「冷やかしの文句、嫌なことを言われる」が6割以上である。 対策としては、日頃から、子ども達の行動を細やかに見ることや毎月1回いじめの実態を把握するための「きずなアンケート」を実施し、児童・生徒から訴えのあったいじめについて、教育相談を行っている。また、6月にいじめ根絶強化月間を実施し、校長からの講話、いじめに関するポスターや標語の作成などの取り組みを通して、学校のいじめ未然防止、早期発見・早期対応の取り組みを推進している。 ・不登校について 不登校となったきっかけと考えられる要因は、①不安など情緒的混乱 ②無気力 ③親子関係をめぐる問題 ④意図的な拒否があげられる。 対策としては、1日休んだら電話連絡、2日休んだら家庭訪問、3日休んだら学校組織として対応、また、連続1週間休む等の不登校の傾向が見られた場合は、該当児童生徒の保護者との教育相談を早急に実施し、保護者と連携して対応策を検討している。その際は、スクールカウンセラー・心のサポート相談員等の専門の方を十分活用しながら推進している。（事務局）		総合支援課
2	○小中学校の教室環境の正常化について 小中学校の教室環境については、エアコンの設置や網戸の設置が必要と考えるが、どのように考えているのか。 PTA等からのエアコンの寄付は受けないのか。 なぜ、来年度音楽室へ設置するのか。普通教室への設置が必要であるなら、計画的に設置すべきではないか。 近隣の方と良い人間関係の構築ができていれば、音楽室の音が近隣へ漏れるということでクレームは発生しないのではないか。	夏の暑さ対策として、これまで、特別支援学級を含む普通教室や音楽室への扇風機設置や、図書室へのエアコンの設置を行ってきたところ。 また、来年度には、小中学校の音楽室156教室と特別支援学級にも、1校につき1教室ずつの125教室、合わせて281教室へエアコンを設置する予定としている。 小中学校合わせて約2千教室ある普通教室への設置となると、45億円程度の経費がかかるため、短期間での実施は困難だと考えている。 また、併せて、本市学校施設の整備にあたっては、分離新設校や特別支援学校の建設、また体育館の天井落下防止対策など、喫緊の課題への対応も多くあることから、緊急度の高いものを優先させながら、計画的に取り組んでいく必要があると考えている。 なお、網戸については、学校から要望があれば、教室周辺の環境を調査した上で、対応を検討したいと考えている。（事務局） PTA等からのエアコンの寄付も受けている。（事務局） 音楽室は、近隣へ音が漏れるということで、授業中に窓を締めた状態で授業をし、室内が暑くなることが多いため、優先的に整備をさせていただく。 普通教室へのエアコン設置については、整備しないということではなく、重要な課題として今後検討していく。（事務局）		施設課

No.	質問・提案・要望等	回 答	補 足	担当課
3	○熊本市の道徳教育について 私は、今の日本には、人に迷惑を掛けない、人のためになる人を育てるため、「道徳」教育ではなく、「公民」教育が必要だと考えるが、どのように考えているのか。 道徳教育は、学校だけの問題ではなく、家庭や地域と連携してやるべきことである。	中学校社会の学習指導要領には、「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」とあり、公民教育を行っているところ。 また、道徳教育の中には、「主として集団や社会との関わりに関すること」という内容があり、その中で「社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中で、日本人としての自覚に立って生きていく」ということを学んでいるものである。 以上のことから、子どもたちに平和で民主的な社会の形成者としての公民的資質を養うことは大切であり、各学校では、社会や道徳の学習、様々な活動を通じて必要な道徳性の育成を図っているところである。（事務局） 言い方の問題ではあるが、ご指摘の「公民」教育は、既に学校の「道徳」教育の中で行っていると考える。（委員長）		指導課
4	○子どもの道徳心について 今の教育に対して、矛盾を感じる。自転車通学で交通ルールを守らない、あいさつをしない、電車の中で足を踏んでも謝らない等、基本的なことができない子どもが多い。昔と異なるのは、時代の流れだろうか。 学校現場の中には、学校評議員制度を活用するなど、もっと地域の力を入れていくべきだと思う。	昨今、基本的なことができない児童生徒の規範意識の低下が課題となっている。ご指摘の、交通ルールを守ること、挨拶をすることなどは、時代の流れに関わらず、大切にしなければならない基本的なものである。 他の人への配慮や思いやりを大切にしながら、約束やきまりを守る大切さや公共心、公德心をはぐくむことは大切なことであると考えている。 本市でも、学校では、道徳の時間を始め、集団宿泊教室や修学旅行、ボランティア活動など、様々な教育活動を通して、人間としての生き方を学び、豊かな心をはぐくんでいるところである。 また、保護者、学校、地域社会が連携して子どもたちを育てていくために、全市一斉のあいさつ運動の実施や道徳の授業の公開なども行っているところ。 「基本的なことができる子ども」、「豊かな心を持つ子ども」に育てていくためには、保護者や地域の方のご協力も得て、進めていくことが大切である。（事務局） 学校現場において、地域の力を活用するひとつの制度として、文科省が推進している「コミュニティ・スクール」がある。現在、本市では、このコミュニティ・スクールについて研究を進めているところである。（委員長） 私は、中学校のPTA役員として、荒れていた中学校が立ち直った姿を見た経験がある。それは、先生方はもちろんであるが、地域の方の支えがあったことが大きいと感じている。学校というのは、地域の中であって初めて存在するものであり、皆様と一緒に学校を作っていきたい。（教育委員）		指導課
5	○龍田小分離新設校の開校について 龍田小分離新設校の開校に向け、子どもが育てた桜の木を移植できるかなど、保護者や地域には不安がたくさんある。その不安に少しでも配慮してもらいたい。	龍田小分離新設校の開校に向けては、期成会等を通じてご協力いただき感謝申し上げます。木の移植については、担当課である施設課に依頼しているところである。今後も、教育委員会としては、立派な分離新設校が開校できるよう努めていく。要望・相談等があったら、窓口である学務課へ伝えてほしい。（事務局）		学務課

No.	質問・提案・要望等	回 答	補 足	担当課
6	○運動部活動について 今の教員は、部活動を教えることで、本業が疎かになっている。運動部活動の指導は、外部に委託するべきだと考えるが、どのように考えているのか。	運動部活動は、子どもが運動の楽しさを味わい、体力の向上を図るとともに、社会性や規範意識を高めるなど教育的な効果も大きく、教育活動の一環として教員がその指導にあたっている。 各種目の専門的な指導については現在も多くの外部指導者を各学校が委嘱して行っているところであり、今後も外部との連携を図りながら運動部活動を推進していく。（事務局） 近年の子どもは体を動かす機会が少なく、体力が低下傾向にある。本市も同様であり、小学校低学年の子どもの体力は、全国平均を下回っている。しかし、高学年以降の子どもは、全国平均を上回り、体力が向上している。これは運動部活動の効果であると言える。しかし、ご指摘のとおり、部活動の指導に対して教員の負担感があるのは事実であるので、様々なご意見を聞きながら、今後の部活動のあり方を検討していきたい。（委員長）		健康教育課
7	○反転授業について 最近、反転授業という言葉をよく聞く。アメリカでは十数年前から実施され、武雄市でも試験的に導入され効果が出ているようだが、熊本市ではどのようにお考えか。	「反転授業」とは、これまで学校の授業で教えてきた内容について家で予習を行い、学校の授業で、予習してきた内容を生かし、協同的な学習や問題に取り組む方法のこと。 「反転授業」のメリットは、事前に家庭で基礎知識の習得をしておくことで、授業では、話し合い、教え合う活動に多くの時間が確保でき、コミュニケーション能力が身につくことにある。 このようなことから、家庭学習が知識の習得の基本となるため、保護者の協力が不可欠となる。 武雄市における「反転授業」は、小中学生全員に1台ずつ配るタブレット端末を用いて行うものであり、武雄市では、子どもたちは、授業のビデオ・動画を入れたタブレット端末を持ち帰り、自宅でその動画を見る。知識の習得のため、自宅でビデオ授業の動画を何度でも繰り返し見ることができる点が挙げられる。 このように、武雄市のようなタブレット端末を用いた「反転授業」は、児童全員にタブレット端末を配布することが前提となるため、今後、武雄市での成果と課題を踏まえ、研究していきたい。（事務局） アメリカの義務教育は、日本のように子どもたちを卒業させることを重視しておらず、子どもたちを留年させる傾向が強い。そのようなシステムの中にあるので、アメリカでは、自分が勉強するかどうかという自己責任が大きくなる反転授業が多く実施されていると感じる。（教育委員）		指導課
8	○特別支援教育の充実について 現在、通常学級の中にも様々な特性を持った子どもが増えていると感じる。そのような子どもたちが社会に出たとき、社会の中で役割を持った大人に育てていくことが重要であると感じている。 熊本市では、特別支援教育の充実についてどのように考えるか。	通常学級においても、特別支援教育の視点を生かした授業を推進することが重要であると考えている。 そこで、学習に集中できる教室環境づくりや一人ひとりを大切にする学級集団づくり、教材・教具を工夫したどの子どもも分かる授業づくり等を推進している。 また、教育活動において支援を要する学級に対し、子どもの安心・安全の確保や学習環境の改善のため、学級支援員や教育活動サポーターを必要に応じて配置している。（事務局） 現在、特別支援学級の担任だけではなく、通常学級の担任にも、子ども一人ひとりの特性に応じた支援が求められている。そこで、学校にいる全教職員を含め、学校全体の支援体制の充実を目指している。しかし、特別支援教育の充実は、学校だけではとても難しいと感じている。家庭の支援も大切となってくるのでご協力をお願いしたい。（教育長）		総合支援課

No.	質問・提案・要望等	回 答	補 足	担当課
8	○特別支援教育の充実について（つづき）	私は、最近、子どもたちがどうしたら心の逞しさを持つことができるのかを考えている。特別支援教育も同様であるが、社会の中で、自分の力を発揮できる子どもたちを育てるためには、何でもしてあげるといような手厚い支援だけではなく、その子にあった厳しさも時には必要だと感じている。（教育委員）		総合支援課
9	○校区外の公園の利用について 自宅の近くに大きな公園があるが、校区外であるため、小学校から、子どもだけでは利用してはいけなと言われた。なぜ家の近くにある公園を利用できないのか。	子どもたちの安全面等の配慮から、学校には、一般的に校区外に出てはいけないというルールがある。しかし、その公園が校区外であっても、その子どもの生活圏であるならば、学校との話し合って対応を決めることが必要であるとする。（事務局）		指導課
10	○ミュージックチャイムについて 楠小学校等にあるミュージックチャイムはどこが設置したのか。ミュージックチャイムは、子どもたちに帰宅時間を知らせるために効果的だと考えるが、今後、教育委員会として設置する予定はあるのか。	ミュージックチャイムは、昭和50年代に民間会社からの寄贈により、各小学校に設置した経緯がある。 しかし、現在では老朽化が進み、市内の小学校数校にしか設置されておらず、地域によっては、音がうるさいという苦情も受けている状況である。 教育委員会としては、ミュージックチャイム設置の継続予算を要求したことはあるが、現在のところ、設置までには至っていない。（事務局）	設 置：昭和58年7月 設置校：24小中学校 事業費：9,600千円 ・午前8時と午後6時（冬期は午後5時）に、朝は「熊本市歌」、夕方は「ふるさと」が流れる。 ・飽託4町合併により、総合支所4ヶ所、小学校2校追加。 平成25年度現在設置校：8小学校	学務課